

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新居浜市立北中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒792-0024
愛媛県新居浜市宮西町5番81号

E-mail nijnj-ad@senet.ed.jp
Website <http://niihama-kita-j.esnet.ed.jp/>

幼児児童生徒数 男子 120 名 女子 94 名 合計 214 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、活動テーマを『ふるさと学習』～地域を知り、地域に学び、地域に発信する～として、自分たちを取り巻く自然環境や地域のあゆみと、その中に生きる人々との関わりについて、探求的な学習を通して地域について知ることを第一の目標としている。そして、その活動を通して、地域の課題を見付け、解決方法を探り、よりよい社会をつくり、地域に生きる生徒を育成することを目指して学習を深めている。

① 歴史・文化学習に関わる活動

目的…新居浜市や別子銅山の歴史を知り、郷土のことを考える力を身に付ける。また、調べたこと、分かったことをもとにして、新居浜市や地域の歴史を伝える。さらに、学習して学んだことを生活にどう生かしていくか、この地域をどう発展させていくかを考え、行動化する。

内容…第1・2学年では、ふるさと学習で行う別子銅山登山を中心にして、別子銅山に関する歴史学習や別子銅山記念館の訪問などを行った。新居浜南高のユネスコ部の協力を得て、別子から見る新居浜の姿をイメージすることができた。また、遠足にあわせてあかがねミュージアムを訪問し、新居浜の歴史文化について学び、地域のよさを再確認した。第3学年では、郷土料理を調べ、新居浜の特産物である白いもを用いた料理のレシピを考案し、全校発表では実際に作った料理やそのレシピの紹介を行った。

② 防災教育に関わる活動

目的…新居浜市や地域の一員として、自然災害に備えた安全な町づくりに関わろうとする態度を身に付ける。また、学んだ知識をもとに、自分たちができる防災対策を考え、地域に発信する。

内容…第1・2学年では、新居浜市の防災についての取組を学習し、自分たちができることについて考えた。第3学年では、避難所運営について考えさせたり、非常時に使用する簡易トイレなどをつくったりして、防災に対する意識を高め、全校発表につなげた。

③ 福祉教育に関する活動

目的…地域の高齢者とふれあったり、地域を支える人々や機関と関わったりすることにより、現代社会における福祉の現状と課題に気付く。また、自分から地域とつながっていかうとする主体的な態度を養う。

内容…第1・2学年では、地域包括支援センターの協力を得て、認知症や認知症サポーターとしての役割について学んだ。第3学年では、独居高齢者宅訪問や特別支援学校川西分校生徒との交流、「命の授業」などを通して、地域とつながっていくことが「福祉」を充実させる方法の一つであることを実感し、中学生から地域の方々に対して感謝の気持ちを伝える「ありがとう会」を実施した。また、二年間の福祉学習の歩みと成果を簡潔にまとめ、全校発表を行った。

④ 人権教育に関する活動

目的…様々な人権問題を主体的に学び、かけがえのない存在としての自己理解と自他の生命を尊重する。また、人権問題の解決に主体的に取り組み、自己の生き方を見直す。

内容…ハンセン病元患者と人権についての講演会を全校で聴き、講演を受けて、各学年で人権獲得の歴史や就職差別についての学習を進めた。特に第2学年では、ハンセン病に関する人権問題について詳しく学習し、様々な人権問題が無知や偏見によっておこされていることを学んだ。また、学習を進める過程で、多くの生徒が療養所であった青松園を訪問した。第3学年では、市役所人権擁護課の協力を得て、新居浜の人権意識の現状や身元調査お断り運動の実際を聞き取った。また、生徒個々で人権新聞を作成し、文化活動発表会の際に掲示をして保護者への啓発を行った。



①の写真 1年別子銅山記念館にて



②の写真 防災講演会



③の写真 3年福祉講座「ありがとう会」



④の写真 大島青松園訪問の様子

3 成果と課題

本校の『ふるさと学習』は、1年生で歴史・防災・福祉・人権に関する学習をすべて行い、2年生で講座別に分かれて本格的に学習を深める。そして、3年生では、全校や地域への発信を行う。この学習の形によって、三年間の学びが生徒にとって一貫性のある学習となっている。また、3年生の全校発表を受けて、下級生が今後の見通しを立てることができ、全校が「地域」を軸にしてつながることができている。学習の過程で、公民館や福祉施設、校区の方々などの協力のありがたさを感じた。この地域のつながりを継続させ、更に発展させていく取組が必要である。そのために、ふるさと学習の年間計画や学習講座の設定の仕方等を一から見直し、次年度に向けて準備をしているところである。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

歓喜の鉱山 別子銅山と新居浜（書籍）
口屋 -現在・過去・未来- 新居浜発展物語（書籍）

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

ESDカレンダーを作成し、他教科との関連付けを明らかにしている。また、カレンダーを毎年見直し、より効果的な指導方法や学習のタイミングを検討し、次年度に生かしている。さらに、主体的な学びになるよう、自ら行動し発信する機会をどの学年も設定している。
--

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

総合的な学習の時間の主任とESD主任を分け、お互いに情報交換を行いながら活動を進めた。また、教務主任がESD主任を兼ねることで、全校的な日程調整や、各学年の授業の調整等を行い、必要に応じてまとめ取りの形で学習を進めた。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

外部…2月末の学校評価委員会でESDの活動を報告し、公民館長や小学校長から取組についての評価をいただいた。

内部…教職員を対象とした学校評価アンケート（教職員）を実施し、ESD教育に対する職員の意識の高まりを評価した。

小中連携や公民館等との連携を深められたことが成果であり、一方で、地域人材の活用が一部に偏っていることが課題である。

- ④ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

学習成果発表会を学年ごとに設定したり、文化発表会で全校的な発表を行ったりすることで、学年や講座を超えた情報の共有化を図ることができた。特に、福祉講座では、普段から中学生に積極的に関わってくれている地域の方々を本校に招いて、感謝の気持ちを伝えるための「ありがとう会」を生徒自らの企画運営で実施できた。地域の方に直接感謝の気持ちを伝えられたと同時に、発信者である生徒が福祉に対して具体的なイメージをもつことができ、今後も積極的に地域と関わろうとする態度が養われた。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

公民館、市役所、福祉センター等、新居浜市にある関係諸機関とうまく連携し、毎年少しずつバージョンアップしながら活動を進められた。特に、福祉講座では、社会福祉協議会の全面協力を受け、二年間の充実した活動を行うことができた。12月末には、愛媛県内の社会福祉協議会の代表が集まる発表会に中学生が参加し、活動の状況を中学生のことばで伝えることができた。

⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

国外との交流・ネットワークはない。国内では、大牟田市立橋中学校と交流をし、福祉講座の取組の情報交換を行った。お互いの地域での取組を生徒が知り、刺激を得ることができた。

⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

前述のとおり、社会福祉協議会との連携が非常によかった。県レベルの発表が実現できたのは、社会福祉協議会のスタッフの協力や情報提供があったからである。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も、総合的な学習の時間を軸にしたESD教育を推進する予定である。また、平成29年度から使用を開始した「ESDパスポート」を来年度も継続して活用し、ボランティア活動を更に発展させ・生徒にとって充実した取組になるように支援していきたい。

なお、生徒数・教職員数の減少に伴い、総合的な学習の時間についてこれまでどおりの「地域」「防災」「人権」「福祉」の4講座に分けることが難しい状況であることから、「福祉講座」の一本化を検討している。社会福祉協議会の協力で得られたノウハウを生かし、独居高齢者宅訪問や「命の授業」等の活動を再編しなおし、「福祉」を全校の中心的な取組にしていきたい。「地域」「防災」「人権」のこれまでの活動については、例えば遠足と「地域」を重ねるといった方法で、校内の行事を精査し、年間計画を作成しているところである。